てんごー新聞

'12.3 No177
発行責任 [illegible]
0883-88-5292

てんごの会16年目

活彩祖谷村七年目

活彩祖谷村開村から七年目の三月を迎えました。少しは続けているという者の、昨年は足ぶみ状態と言えるでしょう。

「てんごの会」結成から十六年にもなり、細々とやるべき事(?)は続けているものの、どちらかと言えば個人的な活動で、組織としての活動とは言いがたいのが現実ではないでしょうか。

一つの原因は、「てんごの会」も「活彩祖谷村」も活動しても、一円にもならないので、人が集まらなくなり、活動が広がっていかないということではないだろうかと考えています。

その反面、「あの人達がやってるのは、金もうけだ」と言われてると聞いたことがあるのが不思議でたまりません。

少ない人口の中で、「共に生き、共に喜こび、共に楽しみ 共に暮らし」といけなければ、「今は我が世」であっても、そう長くは続かないのではないでしょうか。

地域活性化にカンフル剤はないとおもいますが、地域の力は、どこから生まれてくるのでしょうか。

何千万の補助金で家を修復し、何億もの補助金で箱物を作っても、地域の人々が、その気にならなければ、修復する事に熱心で、箱物を築くことが目的になってしまいます。それは、今までに証明されていることではないでしょうか。

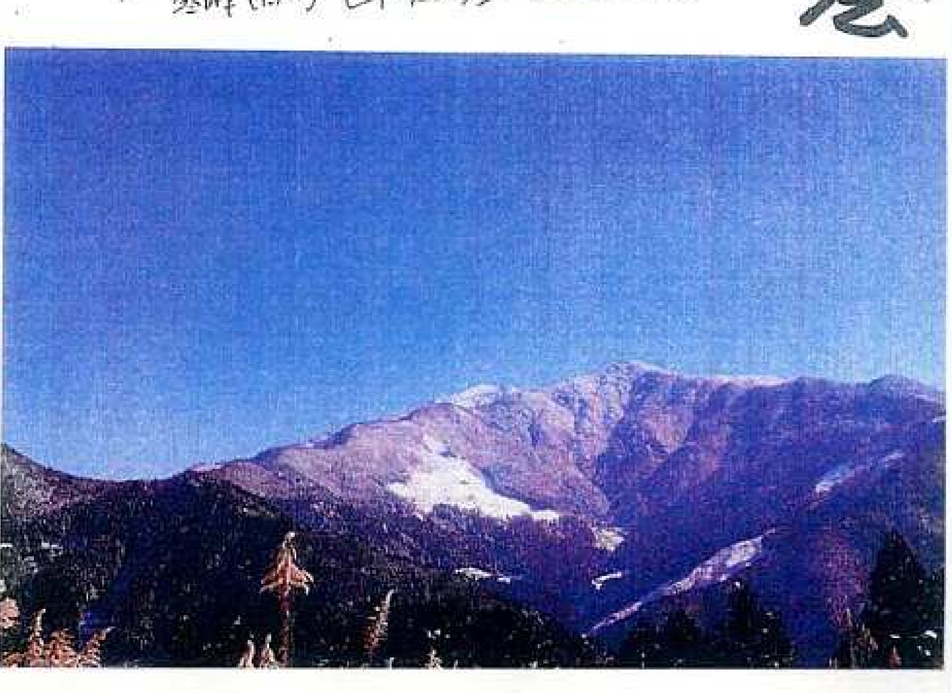
とにかく、私たちが、自分達の住んでるこの村をどうしていくのか、何をしたいのか、住み続けていくにはどうするのか、考え、行動し、築きあげなければ、どこかの有名な人の事に踊らされて、利用されて、結果その人の為だけの地域活性化になりかねません。

活彩祖谷村が七年間で得たものと、そして今だに課題としてある事にしっかりと目を向けて生きていく事が大切になっています。

えーえ一人一人にとって!!

写真上　中津山　ミド

写真下　寒峰（向い）セントゲブラン



知らない事ばかり

人は、知らない事が多いのに、何でも知っている様に振舞う。

自分達が生きてる地球の生物について、人間が分類できた生物種全体の半分にも未にないのだそうです。

五〇〇万から三千万種の中のたった一七三万種だそうです。

それでも、自然を征服出来ると言えるでしょうか。たった一草の山野草でさえ知らないのです。もっと、もっと、自分が住んでる自然環境に目を向けて生きていかなければ必ずや、そのしっぺ返しがくるでしょう。

人と人だけでなく、人と他の生き物との関係も無視できないことではないでしょうか